

注目高まる 多摩大学統合リスクマネジメントコース

編集部

世界的なテロ活動の活発化、異常気象など経営を取り巻く不確定要素が増えています。このような状況に対応した、多摩大学大学院の統合リスクマネジメントコースが注目を集めてきました。

社会人を対象に平日は夜開講

同講座は2001年度に始まりました。テロなど巨大なリスクが登場、しかも既存のリスクも多様化する中、このような状況に対応する新しい見地からの統合マネジメントを確立する必要性が高まってきました。そこで、その担い手としてCRO（Chief Risk Officer）を育成することをねらったものです。

このコースは同大学大学院経営情報学研究科（研究科長＝河村幹夫大学院教授）の中に設置されています。つまり、修士課程というわけで、大学卒を対象にしています。ここには経営戦略コース、ロジスティクス経営コース、そして統合リスクマネジメントコースの3つがあります。

この大学院のユニークなところは社会人を対象にしていることです。そこで、平日は忙しい人が多いとみて、品川インターシティA棟27階にサテライトキャンパス「ルネッサンスセンター」を設けて午後6時半から講義を行い、土曜日だけ多摩市の多摩大学のキャンパスで午前9時から午後5時50分まで（午前2時限、午後3時限）講義を行います。このため、多忙なビジネスマンも参加できるシステムになっています。

多摩大学大学院
経営情報学研究科長
河村幹夫教授



教授陣もユニークです。大学の専門の先生だけでなく、各方面で実際にリスクに直面したビジネスマンなども多数含まれています。いわば、単に理論だけではなく、実践に即した講義を目指しているのです。

未来の職業を開拓

修業年限は2年で在学年限は3年。演習4単位以上を含む合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することが卒業の条件です。2004年4月入学コースでは40人、9月入学のコースは20人で、うち商品先物業界から3人が学んでいます。業界からの受講者は初めてです。

河村研究科長は「まだ日本では広く認知されていませんが、これからの時代が絶対に必要としている専門職業です。いわば、私たちは未来の職業を開拓しているのです」と、その抱負を語っています。

リスクがますます広がる現在、企業経営者にとっても見逃せない講座といえるのかもしれませんが、